



目次

はしがき  
MQA-CDのリッピングについて  
MQAファイルを聴く方法  
MQAの未来

15 12 3 1

はしがき

MQA は Master Quality Authenticated マスターテープと同等の音質を持つと認められたファイル形式で、サイズをコンパクトに圧縮できる技術である。二〇一六年に登場した当初は、デコードの情報が乏しく、再生する方法が分からない人が多かった。その後、リッピングしたファイルに自動でタグを書き込むアプリも開発された。発売されている MQA-CD は膨大な数に上り、品切れとなった物の一部は、高値で取引されている。当初は高価だった再生機器も、若干安くなってきたようである。

その一方で、MQA の開発元が経営危機に陥り、存続が危ぶまれる事態に陥っている。そうした現状を踏まえた上で、

MQA-CD に関する情報を、改めて発信することにした。

二〇二三年九月十八日

高野敦志

## MQA-CD のリップリングについて

ユニバーサルミュージックから、邦楽、洋楽、ジャズ、クラシックの MQA-CD が発売された。CD でありながら、MQA 対応の機器で再生すると、ハイレゾの超高音質が楽しめるという。ロック&ポップス、ジャズ、クラシックに関しては安価なサンプラーも発売されたので、実際に音質を確かめた方も多いだろう。

インターネットでもおおむね好評である。音像がはっきりしており、たとえモノラルの録音であっても臨場感があること、圧倒的な迫力や微かな空気感も表現されていること、リップリングも可能で、CD とあまり変わらない容量しかないことが挙げ

られる。これはハイレゾの音声が、人間の耳に聞きとれない領域にたたみ込まれているからである。

MQA-CD を聴くには、対応するディスクプレーヤーで再生するか、対応するソフトウェアと DAC を接続する以外に、携帯プレーヤーで聴くという方法がある。最も簡単なのはディスクプレーヤーで聴く方法なのだが、かなり高価なので一般のユーザーには手が届かない。

対応するソフトウェアと DAC を組み合わせる方法は、専門的な知識が必要である。本来なら、携帯プレーヤーで聴く方法が、一般のユーザーにとって最も取っつきやすいはずである。リーズナブルな価格で最高級の音が楽しめるのだが、これまたテクニクが必要なので、MQA-CD を買いながら、本来の音

で聴くことができないユーザーのために、リッピングの方法を具体的に紹介することにする。

MQA-CD をリッピングすること自体は、通常のCDの場合と全く同じである。特定のソフトウェアでなくても、Flac で可逆圧縮できるものを使用すればいい。お勧めはソニーが提供している Music Center for PC である。本来はソニーのウォークマンに音楽ファイルを転送するためのものだが、無料で使用することができる。CD 相当の Flac をハイレゾにアップサンプリングする機能も備えているが、MQA ファイルのデコードには対応していない。

ただ、MQA-CD はリッピングしただけでは、たとえ MQA

対応の機器を用いてもデコードされないことがある。それはコーデックやサンプリング周波数のタグが、リッピングしたファイルには含まれていないためである。デコードするには、ファイルにタグを書き込まなければならないのである。

Mp3tag は Flac をはじめとする多くの音声や、mp4、m4v などの動画にも対応している。使い方は mp3 などの場合と同じ。パソコン内のディレクトリ（フォルダ）を指定し、「タグを取得」して保存する。直観的に使いこなせると思われるが、詳しい使い方は高機能かつ使いやすいタグエディタ！「Mp3tag」のページを参照するといいい。

MQA のタグを書き込むには、Mp3tag でアルバムのすべてのファイルを選択した上で、右クリックし、「タグを編集」↓☆

「フィールドを追加」をクリックし、「フィールド」に ORIGINALSAMPLERATE、「値」に MQA-CD のサンプル周波数を入力する。ユニバーサルミュージックのCDの場合、アルバムの大半は352800であるが、中には176400や88200のものも存在する。ふたたび☆「フィールドを追加」をクリックし、「フィールド」に ENCODER、「値」に MQAEncoder と入力する。「OK」を押せば、タグを編集する作業は終わりである。ユニバーサルミュージック以外で発売されている MQA-CD の場合も、仕様は全く同じである。

もし foobar2000 を利用しているのであれば、タグの編集はできるのだが、作業はちょっと複雑である。foobar2000 を起動したら、file → Add folder で、リッピングした MQA-CD のアルバムを選択する。アルバムのすべての曲を選択したら、Library → Configure → Preference Advanced → Display → Properties dialog → Standard fields をクリックし、ORIGINALSAMPLERATE > =%ORIGINALSAMPLERATE%、ENCODER > =%ENCODER% の記述があるかどうか確認し、ない場合には追加する。

次に、ふたたびアルバムのすべての曲を選択し、右クリックで Properties を開く。Tools をクリックした後、Add new field もクリックし、Field name に ORIGINALSAMPLERATE と打ち込む。このとき、不要なスペースが入らないように注意する。現れた ORIGINALSAMPLERATE の項目に、MQA-CD のサンプル

ル周波数を打ち込めばいい。それと同じように、Tools をクリックした後、Add new field もクリックし、Field name に ENCODER と入力し、現れた ENCODER の項目には MQAEncoder と入力する。

ただ、タグを書き込んだだけでは、まだ不十分である。MQA 対応のあらゆる機器でデコードできるようにするには、タグを書き込んだファイルの名前を、…….flac から…….mqa.flac に変更する必要がある。これだけのことをしなければ、MQA-CD からリッピングしたファイルは、ハイレゾとしてデコードされないのである。

こんな作業は無理だと感じた場合は、以下の簡便な方法を利用すればいい。ユニバーサルミュージックのホームページに、「MQA」として認識させるアプリ」が紹介された。このアプリを使用すると、リッピングしたファイルにタグを書き込んだり、拡張子を、.flac から、.mqa.flac に手動で変更する必要もなくなり、すべて自動で処理してもらえる。開発元の MQA のページから、MQA Tag Renaming Application をダウンロードする。Windows 版と Macintosh 版が存在する。使い方については MQA CD Ripping\_ja-jp\_.pdf に説明されているので、作業の前に読んでおくこと。

使い方としては、事前に他のソフトウェアで flac としてリッピングしておき、MQA Tag Renaming Application でタグ付けを

自動で行った上で、元の *Flac* のフォルダを削除して、MQA というサブフォルダを、使用する機器に読み込ませればいい。

タグを自動で書き込んでくれるアプリが登場したことは、タグの書き込みなどの作業が苦手な人には、大きな助けとなるだろう。これによって、MQA-CD の音質の素晴らしさ、澄み切った異次元の音に、より多くの人が触れられるようになった。

## MQA ファイルを聴く方法

出来上がった MQA ファイル (……. mqa. Flac) を聴く最も簡単な方法は、ハイRez対応の携帯プレーヤー、ソニーのウォークマンなどを利用するものである。ただ、コンピュータで聴く場合には、AUDIRVANA や Roon など MQA 対応のプレーヤーを使用する必要がある。

ここでは AUDIRVANA について説明する。AUDIRVANA には買い切りの Audirvana Origin とサブスクリプションで、月ごとにご利用を払う Audirvana Studio がある。前者はパソコンに保存されているファイルを高音質で聴くためのものである。後者はローカルのファイル以外に、音楽配信やインターネットラ

ジオを高音質で聴くためのものである。

ただ、パソコンのサウンドカードは貧弱なものが多い。たとえばハイレゾに対応していたとしても、MQA ファイルはデコードできない。デコードするには、AUDIRVANA や Roon などのソフトウェア以外に、MQA 対応の DAC が必要である。自分の場合は、**RE** の DAC を使用している。

なお、DAC にはレンダラーとフルデコードのものがある。レンダラーの場合、AUDIRVANA などでは 88.2kHz、または 96kHz までデコードし、それ以上のデコードはレンダラーで行う。フルデコードの DAC の場合には、AUDIRVANA や Roon などのソフトウェアなしでも、MQA は完全にデコードできてしまう。フルデコードの DAC を使用するなら、再生するプレーヤー

は何でもいいわけだが、高音質で聴きたいなら、少なくとも **Audirvana Origin** は購入して、MQA ファイル以外の CD 音質のファイルも、アップサンプリングでハイレゾ化して、DAC 経由でスピーカー、またはヘッドフォンで再生することをお勧めする。



## MQAの未来

ハイレゾをコンパクトなサイズに圧縮するMQAの技術は、素晴らしいものだと思うのだが、先述したようなデコードのわかりにくさ、MQA対応の機器を買いそろえるなどの出費などから、普及はいま一つというのが実情である。

MQAを配信していたe-onkyo musicはqobuzに統合されることになり、MQAファイルの配信を中止してしまった。音楽配信のTidalも新たに配信するハイレゾファイルを、MQAからFlacに切り替えると言明した。ただ、すでに公開しているMQAファイルは、配信を続けるという。

そうした状況により、MQAには暗雲が立ちこめている。MQA

の開発元が経営破綻してしまったのである。このまま買い手がつかなければ、会社自体が存続できなくなってしまう。そうした状況を考えれば、将来的にはデコードできなくなるかもしれない。MQAはハイレゾ部分がデコードできなくても、CD音質で再生できると言われているが、人間の耳に聞こえにくい音域を削って、ハイレゾの音を折りたたんでいるため、デコードしないで再生したMQAは音圧が低い。

ただ、MQAの経営破綻が報道されてからも、ユニバーサルミュージックはMQA-CDの新譜の発売を続けている。また、海外でもSACD Stereo/MultichannelとMQA-CDのハイブリッドのアルバムは販売され続けており、再生可能な機器がなくなってしまう恐れは、今のところはない。

たとえ MQA 対応の DAC などが市場から消えたとしても、  
AUDIRVANA などがあれば、88.2kHz または96kHz までではデ  
コードしてくれるので、CD 音質とは明らかに異なるハイレゾ  
として再生できるのである。